

会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		平成30年度 豊島区子ども読書活動推進会議（第3回）
事務局（担当課）		文化商工部 図書館課
開催日時		平成31年1月23日（水） 午後3時00分～3時55分
開催場所		会議室（中央図書館 5階）
議 題		1 「区民読書活動実態調査」調査項目について 2 今後のスケジュールについて 3 その他
公開の 可否	会 議	<input type="checkbox"/> 公開 <input checked="" type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開の理由：行政機関における政策意志決定過程の途上に位置付けられる会議であるため
	会 議 録	<input type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input checked="" type="checkbox"/> 一部非公開
		一部非公開の理由：行政機関における政策意志決定過程の途上に位置付けられる会議であるため
出席者	会 員	文化商工部長（会長）、教育部庶務課長（代理）、学習・スポーツ課長、図書館課長、長崎健康相談所長、子ども若者課長、子育て支援課長、放課後対策課長、統括指導主事（代理）、区民ひろば所長（代理）、健康推進担当係長（代理）
	事 務 局	図書館課経営担当係長、図書館課主任

審 議 経 過

1 「区民読書活動実態調査」調査項目について

事務局：資料3-1、資料3-2について説明

会 長：両方の資料を見比べながら、具体的な調査票と調査項目について説明があった。それぞれ3種類「小学生用」「中高生用」「保護者用」になっている。それぞれについても、全体でも結構ですので、意向調査の回答について、自分の意見が反映されている、いないも含めて、ご意見等いただきたい。最初に、今回の考え方のポイントを、もう一度、事務局から教えていただきたい。

事務局：①性別の削除、②本についての定義を前提条件として表紙に記載、③「本を読む理由」「本を読まない理由」などの「調査項目」や「選択肢」を東京都の調査と統一、④豊島区の図書館に限定した質問から「地域の図書館」に拡大、⑤「SNS」や「電子書籍」の利用について調査、⑥選択肢に「子どもスキップ・学童クラブ」を質問別に判断、⑦「読み聞かせの意義」や「子どもが興味を持った本のタイトル」など計画策定のための調査項目として不採用とした。主だったものから事務局で次回の計画に反映させたいと整理した。

会 長：具体的に委員から出た意見を事務局で改めて必要と取り入れたところと、今回、見送ったところがある。子どもスキップのところや読み聞かせの具体的な本のタイトル名など、ご意見をいただいた委員のなかで、疑問に思うところがあれば、是非、ご意見をいただきたい。

会 員：中学2年生と高校2年生の項目、14ページ問1の項目5番で「メールやSNSなどをする」とあるが、ほとんどメールはしていない。載せるのであれば、「SNSやメール」のほうが順番としてよい。

次の15ページ問5「あなたが本を好きだった時期を教えてください。」とあるが、中学生にとって、今が一番読んでいるかもしれない。そのような時に、どこに丸をすればいいか迷う。高校生も同じだが、「今」という時に付けられる項目があればいい。

それから、小学生にはあった「放課後何をしていますか」という質問は、中高生にはあるのか。

事務局：中高生には、質問していない。

会 員：小学生の調査で、問10と問12に「子どもスキップ・学童クラブ」を採用していただいた。「図書ネット便」を利用させていただいているので、ここに丸を付ける数が多いといい。

会 員：二点ある。ひとつは、中学生・高校生の間5の選択肢で「小学校低学年」「小学校高学年」とあるが、「低学年」「高学年」の分け方をすると「1～3」「4～6」のほうがよい。中には「中学年」を入れて3つに分けるパターンもあるので、数字を併記するとよりわかりやすい。

もうひとつは、小学生の間12「あなたは、どこで本を読みますか。」の項目に「子どもスキップ・学童クラブ」がある。そうすると「子どもスキップ・学童クラブ」におそらく行っている子なのだろうとわかるが、問2で「あなたは、学校が終わってから何をしていますか。」という項目がある。ここには、場所的なことが前提として書かれていない。それは、学校が終わってから、スキップに行くとか学童に行っているとか、あらかじめ確認しておかなくてもいいのか。スキップはみんな利用していて、ある程度環境が整っていて「読む子」と「読まない子」。そういうところには行かないけれども自分から主体的に「読む子」と「読まない子」ということで分類できるのではないか。

会 長：小学生の生活パターンのことを考えている。小学校が終わったらどこへ行くのかという事を「家へ帰る」のか「スキップに行く」のか他のところに行くのか、場所を特定して何をするのかという方が、流れとして考えやすいという提案か。

会 員：それに関連して、スキップに来ている子どもたちは、この間のどこに丸を付けるのか。項目9の友だちと遊ぶなのか。

事務局：「2. 勉強や宿題」、「4. 本やマンガや雑誌などを読む」とか複数に丸を付けられるようになっている。場所を固定してしまうとそれだけに丸ということになってしまう。いろいろなことができるので、複数、丸を付けてもらったほうが良いと考えた。ただ、「1. 地域の図書館を利用する」とこだけは場所を固定している。本当ならば、「4. 本やマンガや雑誌などを読む」でまとめていいのかもしれない。

会 長：今、小学生はどのような行動パターンなのか。私が小学生の頃は、自宅に帰るのが圧倒的だったので、行動パターンを選ぶことはできたが、勝手に解釈すると自宅に帰らないでスキップに行くことのほうが多いと思っている。

会 員：どのくらいの率かわからないが多いと思う。

会 長：このまとめ方、前回と比較してということなのでどのようにしたらよいか。

事務局：読書活動について聞きたいため、場所ではなく、放課後どのような活動をしているのか把握したいと思い前回の質問をそのままにした。

会 長：行動特性のほうを重要視するということ。

事務局：このなかで4番の「本やマンガや雑誌などを読む」という読書活動に丸を付けている子は、どのくらいいるのか。学校のある日と無い日で差があるのか。SNSやメールなどを行っている子の割合と比べるとどうなのか、該当するものすべてに丸を付けてもらえれば、どういう結果が出るのか、他の設問とクロス集計してみる。

会 員：設問自体が違う。学校が無い日も聞いているのに、「学校が終わってから何をしていますか」になっている。

事務局：設問自体を整理する。

会 員：この調査の結果（読書活動に関する実態調査報告書平成26年12月）が計画になるということか。

事務局：この調査の結果（読書活動に関する実態調査報告書平成26年12月）とこれから行う調査の結果を比較してみたい。

会 員：子どもAさんの保護者Bさんは、リンク付けするのか。親が本を読む家庭は、子どもも本を読むとか。

事務局：ひも付けしていない。

会 員：今回はできないのか。

事務局：前回もできていない。

会 員：「親が読んでいる子は、子どもも読んでいる」という書き方がされているのはどういうことか。一般的なことなのか。

事務局：別の調査ではなく、そのお子さんの保護者にはアンケートをとっている。

事務局：調査の中で、「あなたの親はよく本を読んでいますか」という聞き方をしているので親がよく本を読んでいる子は読書量も多いというような結びつけ方をしている。

会 員：私が読んでいないから、私の子も読んでいないという結びつけ方はしていないのか。

事務局：あくまでも、子どもに親が読んでいるかいないか聞いている。

事務局：今回、統計上の名前がないからわからないのか。アンケートは、家族に出しているのか。

事務局：学校にお願いしている。

事務局：学校で児童・生徒の調査をして、保護者用はその児童・生徒に調査票を託して自宅に持って帰ってもらい、それを、郵送で回収する。そのため、子どもの回答と親の回答は、まったく結びつかない。学校での調査も先生が、授業中に実施し、回収していただく。親子がひも付けできる何かいい方法はあるか。

会 員：子どもの生活実態調査を行った時は、子どもと親の封筒を別々にして、合わせたものを一つの封筒に入れて郵送で返してもらった。

事務局：子どもの調査を学校でやることによって、回答率が高い。これを家に持って帰ると子どもの回答率自体が低くなるのではないか。前回、初めて行った調査だが、学校で授業中に実施し、回答を区にまとめて送ってもらったこともあり、回収率、回答率が高い。保護者が36%、子どもは100%だった。本来は結びつけられるとよいが。

会 員：今、作成中の教育ビジョンのアンケートは、学校経由だが、一旦、持ち帰って記入し、また、学校でまとめている。

事務局：親と子どもを合体させているのか。

会 員：学校で回答というのはやっていない。

事務局：一緒の封筒に入れてというのであれば、親子のひも付けができる。

会 員：番号さえ付けておけば、学校でまとめようがひも付けはできる。

事務局：回答率をとるか、きちんとひも付けしたもののほうが調査結果はもっと有効なものになる。

会 員：小学生など、学校で調査票の記入など時間をとらせてしまうと学校の負担になる。

事務局：学校に、時間をとっていただいている。

事務局：子ども読書活動推進計画そのものについて、子どもの動向をさぐるということが目的なので、確かに、就学前のお子さんについては、保護者が記入することになると思うが、子ども読書については、児童・生徒が書いた調査が基本になる。その家庭のというのは、この段階ではひも付けなくていい。一定の傾向はみられると思っている。

会 員：ひも付けのことではなく、回答方法として学校で実施すると小学2年生は、質問がわからなくて、結局先生にということになるので、学校の負担かと思う。

事務局：申し訳ない。負担をおかけしている。

事務局：できるだけ設問数も少なくと思っている。

会 員：家で記入するというと親子で話し合う機会ができるのではないか。

事務局：文言で児童・生徒にわかりにくいというのがあれば、ご確認いただきご指導いただきたい。

会 員：熟語にするとわかりにくい子がいる。平たいことばのほうがわかりやすい。インターネットとメール、SNSが特に小学2年生には違いがよくわからない。スマホとか携帯などのほうがわかりやすい。

事務局：検討する。

会 員：物はわかる。インターネットは抽象的な感じになる。

会 長：今日が最終になる。一旦、これでこの議題は終了させていただく。承認という形にさせていただくが、持ち帰って気づいたら、是非、事務局まで連絡をいただきたい。

会 員：1点だけ、小学生の質問の一番初めの、設問に入る前の大前提の本の記載が小学生にわかるのか。2年生はマンガとコミックの違いや、書籍など、ご配慮いただきたい。

会 員：小学生と中学生両方あるが、小学生12ページ問16「あなたは、地域の図書館に一月に何回行きますか」という質問があるが、「年に何回」と両方あってもいいと思う。

会 員：私も、学校のある日と無い日のところと男女のところが気になっていた。そこが変更になっていたの。

会 員：前提条件のところ、子どもの読書活動として新聞が項目に入っているが、新聞を入れた理由は何か。

事務局：教科書以外、新聞も学習、知識の収集の中に入るということで読書活動の一環とみた。参考に東京都では、本について、除外するのは教科書と学習参考書、マンガ、雑誌、図鑑、写真だけの写真集、絵だけの絵本、を除いている。そのため、新聞は東京都でも入れているという判断をしている。

会 員：雑誌は、東京都は除外している。

事務局：はい。区は入れている。雑誌でも学習雑誌的なものもある。

会 員：項目は東京都の調査と合わせましたというところがあったが、対象とするものが異なるにもかかわらず、項目が同じで比較ができるのか。

事務局：前回、本の前提条件としてこれを使っていたので、前回の調査との区としての比較を

した場合ということを考え、同じ調査項目を使用した。読む・読まないの理由については、この前提条件にかかわらず比較できるのではないかと考えている。

会 員：雑誌や絵本を入れる・入れないで、回答のリスクが変わってくると特に小学生は思うが、前回との比較という点では、同じようにしたほうがいいという気がする。

会 員：小学生のアンケートでやはり2年生と5年生のアンケート内容が同じというのは、2年生にとっては難しい。雑誌ひとつとっても、どういうものが雑誌かわかりづらい。5年生ならわかるが、2年生ではわからないところがあり、そのところを学校の先生に説明してもらえないと、そういうところでの差があると感じた。

会 長：そちらについては配慮してということになる。事務局で、カットしたスキップの関係はよいか。

会 員：それは、大丈夫です。根本的な事で本とマンガはひとまとめになっている。それはそれでいいのか。

事務局：豊島区はマンガを除外することはできない。実際、図書館にもマンガは置いてある。また、最近はマンガの学習書もたいへん多くなっている。マンガについては除外しない方向で前回の調査もしている。引き続き、区の考え方としてマンガも入れている。

会 長：マンガと言っても学習書もあるし、ストーリー性のあるおもしろおかしいコミックものもある。いずれ、分けて調査してみるのもいい。入れる・入れないで言えば、マンガ・アニメというのは、区の特徴として入れておくべきものだと思っている。同列で疑問が出てきて説明が必要ならば、われわれも考える必要がある。

会 長：ご意見をいただいたので、この議題については終了する。今後、こちらについては、本日、委員のみなさんにご審議いただいたことについて、事務局で整理する。確定した内容で、平成31年度、調査をさせていただく予定ですが、そのような流れでよいか。承認いただけたということによいか。

会員一同：承認

会 長：今後は、今日いただいたご意見を改めて確認しつつ確定する。

2 今後のスケジュールについて

事務局：資料3-3について説明

会 長：平成31年度の6月に、平成30年度の実施状況調査の実施とあるが、平成30年度ではなく平成31年度ではないのか。

事務局：これは、第三次子ども読書活動推進計画の平成30年度に実施した事業の状況調査である。今年も実施した、各課に調査したものである。各課で30年度にどういう取組みをしたかを把握する調査である。

会 長：2種類の調査、今日、調査票を検討していただいたものと第3次計画の進捗状況調査をするということ。

このスケジュールについて質問はあるか。みなさまには、このスケジュールに沿っ

て、会議にご出席いただくことになる。次回はいつになるか。

事務局：来年度の6月になる。

会 長：教育委員会には、3月に報告するのか。

事務局：はい。

会 長：スケジュールについては以上である。

3 その他

会 長：それでは、議題の3その他、みなさまからこの場で情報提供していきたいとか何かありましたらお話しください。

会 員：「図書ネット便」の利用状況を報告したい。4月から始まり1月までだが、全部の月、利用しているスキップは8か所。8か所のスキップが毎月「図書ネット便」を利用している。利用回数は延 131 回、冊数でいうと 4,324 冊。おかげさまで利用させていただいている。4か所1回も利用していないスキップがあるが、これは、所長の意識・姿勢もあるかもしれないが、人手不足できびしいという事情もある。そういうところには、こちらからももう少し利用するように働きかけたい。所長の感想では子どもたちがよく読んでいるとか喜んでいたりとかあるので、私としても、もっと利用するように言っていきたい。

会 長：幼稚園、小学校や中学校の先生方、何かおっしゃっていることはあるか。

会 員：学校では、読書活動の推進をしている。学校では、本をよく読む子のほうが、学力が高いという傾向も調査のほうで出ているので、是非、読書を推進していきたいと思っている。よく読む子と読まない子とそれぞれ背景があると思うが、それが、調査のいろいろなところから見えて、学校の指導が役立てばいいと思う。

会 員：それと、司書の所管が変わってそれも充実している。

会 長：タブレットの話が出ていたが、紙とタブレットでは違うのか。最近、タブレットを持っている人は見るけれど、紙を持っている人はほとんど見ない。

会 員：小学生や中学生でも、タブレットを持っている人はまだまだ見ない。タブレットで読書しているというのは、まだまだ少ないと思う。

事務局：今回の調査でどの程度いるのか、小学校2年生でどの程度いるのか把握したい。

会 長：これで平成30年度第3回の豊島区子ども読書活動推進会議を閉会する。

提出された資料等	配付資料	
	資料 3-1	平成 31 年度「区民読書活動実態調査」調査内容検討結果
	資料 3-2	平成 31 年度「区民読書活動実態調査」調査票項目(案)
	資料 3-3	今後のスケジュール
	参考資料	読書活動に関する実態調査報告書（平成 26 年 12 月）